令和８年度 文京区立礫川小学校 授業改善推進プラン〈４年生〉

	現状分析	具体的な授業改善策
国語	・全体に対する発問時は、発言する児童が限られる傾向がある。 ・グループでの話し合いでは、多くの児童が積極的に発言する様子が見られるが、話す方は順序立てて分かりやすく伝える力、聞く方は相手が何を伝えたいのか意識をして最後まで聞く力が不十分である。 ・物語文で、登場人物の心情を叙述から読み取ることができる。 ・説明文で、段落相互の関係に着目して、書き手の考えがどのように説明されているかを細かく捉えるところに課題が見られる。 ・文章を書く際、すらすらと書ける児童と言葉にできていてもなかなか書けない児童などの差がある。 ・新出漢字の定着に個人差が見られる。	・日頃から発表の場を多く設定したり、机間指導後に意図的に指名したりする。 ・校内研究をはじめ、論理的思考力を養う手立てなど、学校生活すべての「話す・聞く」場面を取り上げ、人の話は最後まで聞くこと、話す時は相手の様子を見て、要点を押さえて話すことを指導する。 ・物語文は、主題に迫る読み取りができるよう指導する。 ・説明文では、段落相互の関係を明らかにする学習を取り入れるとともに、大切な言葉や筆者の考えなど、どの箇所が当てはまっているかを細かく確認することで、読解力を伸ばす。 ・文章を書く前に中心となることや組み立てなどを整理する活動をとるなど、「書く」習慣を身に付ける。 ・漢字練習や漢字テストを実施し、間違い直しに取り組ませる。
社会	・都道府県の名称や位置関係についての理解には、個人差がある。 ・調べ学習の際に、どの資料から調べるのか、資料のどこを見るのか、何が読み取れるのかについて考える力に差がある。 ・東京都の地形の様子など、一つ一つの特徴や情報を理解することができていても、それらがどのように関わっているか、つながりに気付き、考えを深めていく力に課題がある。 ・水やごみの学習では、自分の生活との結び付きを感じながら、体験教室や調べ学習、学習発表会を通して内容を理解し、自分たちにできることを考えることができる。また、学習したことを活かして生活する様子も見られる。	・地図帳を開く回数を増やすとともに、ミニテストを行うなどして定着を図る。 ・全体指導で例を挙げながら資料の読み取り方を指導する。年間を見通し、スモールステップで継続的に指導していく。 ・一つの情報だけでなく、複数の情報から総合的に事象を考え、まとめられるようにする。また、自分の言葉で学習問題に対するまとめを書かせ、それらを全体で共有することで、様々な視点をつなぎ合わせて考えられるようにする。 ・今後も具体的な生活場面や児童の気付きを大切にし、児童の興味や関心を高めるとともに、学習に結び付けることができるようにする。

	・それぞれの気付きや疑問から、主体的に「問い」や学習問題へとつなげていく力に課題がある。	・グループ学習を積極的に活用し、気付きや疑問について深める時間をとる。問いにつながるような資料や発問を精選し、児童それぞれの考えを引き出すことで、学習問題の設定へとつなげていく。
算数	・文章問題では、問題の意図が読み取れないため、支援が必要な児童がいる。 ・基本的な計算をすることができるが、速さを意識しすぎるあまり、正確さが欠けている様子が見られる。 ・全体的に知識、技能の定着が図れているが、なぜそのような考え方ができるか、過程を正しく理解していない児童がいる。	・習熟度別少人数にクラスを分け、個に応じた指導をしていく。 ・習熟度別のクラスによって取り組む問題を変えたり、基礎問題の反復練習を取り入れたりする。 ・丁寧な立式と計算を意識させるとともに、見直しを徹底させる。 ・解決の見通しを話し合ってから自分の考えを書かせたり、ペアや小集団での対話活動を取り入れたりするなど、協働的な学習で理解を高める。
理科	・植物や身の回りの自然の事象に関心をもち、学習に取り組むことができる。観察や実験にもすすんで取り組むことができている。 ・観察の際、細かく特徴を捉えてスケッチや文章に的確に表すことに課題が見られる。 ・自らの経験や既習事項などから根拠のある予想を立てる力に個人差が見られる。 ・「問題」「予想」「実験」「結果」「考察」の流れで学習することが身に付いているが、「結果」と「考察」の区別ができていない様子が見られる。	・個々の関心を、学級全体の課題設定や問題解決の活動の充実につなげられるようにする。 ・観察の前に、目的の確認や視点を全体で共有してから始める。また、適切なスケッチや文章のカードを取り上げ、全体に紹介してよさを共有する。 ・予想を話し合う時間を充実させることで、予想の立て方について指導するとともに、考えを共有しながら児童全員が学習の見通しをもって調べられるようにする。 ・学級全体で「結果」を確認してから「考察」の時間を設定することで、違いを明確にするとともに、「問題」との結びつきを意識させる。また、グループで考えを共有する時間を設定してからまとめを行ったり、必要に応じて個別に指導したりする。
音楽	・歌唱や器楽、鑑賞や音楽つくりの活動にすすんで取り組む姿が見られる。 ・リズムの模倣や、拍にのって手拍子をしたり体全体を使って表現したりする活動を楽しんでいる。 ・歌唱では、自然で無理のない歌い方で歌おうとする姿が見られる。	・さらに意欲的に活動に取り組むことができるように、様々な体験を学習計画に取り入れる。 ・学習の流れやめあてについて、板書や掲示物を使用して共有しながら視覚的にも示していけるようにする。 ・一人一人の声の特徴を生かしつつも、力まず曲想に合った自然な歌い方で歌えるようにする。

	・リコーダーの学習に積極的に取り組み、楽曲のリズムや旋律に気を付けて演奏しようとしている。運指やタンギング等技能面の習得に課題があっても粘り強く取り組み、力を伸ばしている児童が多い。	・タンギングや運指、息の強さ、音色など、個別に指導していく。リコーダーの音色を聴く活動を取り入れ、気付いたことや感じ取ったことを伝え合う時間を設定し技能を高めていく。
図画工作	・表しながら様々なことを感じ、考えを広げ、それを自分の表現に活かしながら意欲的に活動をしている。 ・友達と関わりながら活動することを好み、相互鑑賞も楽しんで行っている。 ・学習規律を守ることや、安全に配慮して活動することに関しては継続的に支援するための手立てが必要である。	・試しながら表したり、次第に表したいことが明確になるような題材を多く取り入れたりすることで、発想を自由に広げていけるようにする。 ・自然に相互鑑賞ができるように設定し、様々な表し方やよさ、面白さが感じ取れるようにする。 ・教員間で児童の頑張りや成長、約束事などを情報共有し、連携しながら丁寧に繰り返し指導していく。
体育	・グループ競技では意欲的に運動している反面、気持ちが前面に出てしまい、チームプレーやルール、マナーを守れていない場面も見られた。また、苦手なことに対して、意欲的に取り組めている児童がいる一方で、活動に消極的な児童も見られる。 ・体育的行事の表現練習では、よりよい振付けにしようと意見を出し合う様子が見られたが、技能の高い児童が中心である。各児童が主体的に取り組めるよう、個々のレベルアップにつなげる声掛けが必要である。 ・熱中症対策の影響もあり、体力の向上が課題である。	・グループ競技であっても、個人や少人数で練習する時間を確保したり、技能の習得につながる予備運動を取り入れたりする。また、ルールや流れなどの競技理解を深め、少しでも成長した部分を褒めていくことで児童の意欲を高めていくことを促していく。 ・運動のヒントとなる資料や上手にできている児童の手本を見せ、課題の解決に活用させる。また、間違えてもいいから意見を言うことや失敗してもいいから挑戦してみることの声掛けを継続していく。 ・楽しみながら体を動かしたり、運動量を確保できるような授業づくりを行ったりする。短い時間でも日なたで運動させることで暑さに対する耐性を身に付ける。
道徳	・道徳的価値について素直に考え、自分の考えを表現することができる。 ・学んだ価値について、これまでの自分自身の生活に結び付けて考えているが、今後の生活に結び付けて実践していくことが課題である。	・今までの自分を振り返りながら価値について考えるとともに、友達の考えを聞くことによって考えを深めていけるように授業を展開する。様々な意見を取り上げながら、価値に関してより多面的かつ多角的に考えられるように指導する。 ・日常の学校生活で、学んだ道徳的価値について活用している場面を見かけた時には取り上げ、児童に価値付ける。

総合	・課題に対して、自分が何を探究していくべきか考える力に個人差が見られる。 ・探究的な学習の過程において、積極的に調べようとする姿が見られた。調べた内容から、新たな疑問を見付けることや更に考えを深めようとする意識やその方法を考えることに課題が見られる。 ・インターネットによる調べ学習に意欲的に取り組んでいるが、多くの情報から必要な内容を選んだり、まとめたりする力に課題がある。 ・他者と協働して課題を解決しようとする活動の経験が少ない。	・個人で考える時間とグループや学級全体で話し合う時間を設定し、思考を整理したり、分類したり、具体的に想像したりできるようにする。 ・理解したことから新しい疑問を見付けようとする習慣を様々な教科の学習を通して身に付けていく。また、毎時間振り返りの時間を確保し、次の時間にするべきことを自分で考えられるようにする。 ・とりあえず調べるのではなく、何のために調べるのかを目的意識を明確にしたり、調べる範囲を決めたりして多くの情報を書き写すことが目的にならないようにする。また、図書資料の活用や出典の必要性など、国語科の学習と関連付けながら、効果的で正しいまとめ方などを指導していく。 ・総合的な学習の時間に限らず協働学習を取り入れ、自分の考えを表現したり、新しいものを作り上げたりする経験を重ねる。また、他者の考えを認める学習環境づくりを日々行っていく。
外国語活動	・ALT や担任とのやり取り、外国語を取り入れたゲームを楽しみながら、意欲的に活動している。 ・英語の歌やヒアリングの活動では、ジェスチャーや予想などを交えながら行い、回数を重ねる度に積極的に参加する児童が多く見られる。 ・問いに対して英語で答えることに自信がなく、発言が消極的になる児童が見られる。	・ALT との触れ合いから外国への興味や関心につなげていくとともに、ゲームや歌やジェスチャーなど、大人が楽しく行う姿を見せて児童にとっても親しみやすいものにする。 ・ペアやグループなど学習形態の工夫や改善を図ったり、間違えても大丈夫であると思えるよう安心した環境をつくるために挑戦したことを褒めたりして、リラックスして楽しく授業に参加できるようにさせる。